



3日間の短期漆実習を経て、12月半ばから始まった漆実習も2月22日に終了しました。



木地を紙やすりで整えています。
短期の実習の講評の際、木地の整え具合について詳しく聞いていたので、情報が役に立っています。
傷があれば目立ち、ツルツルに整えすぎると漆がしっかりのりません。



漆を木地に塗り込みます。
塗ったそばから、漆の色が変わっていくのが面白いですね。



塗った漆を寒冷紗で拭き取ります。
拭き残しがないように拭き取りますが、拭き取りすぎると艶が出ないので、いい塩梅を目指します。



うまくいかなかったところを講師のチェック。
この後、もう一度紙やすりで研ぎなおして再チャレンジ。
リカバリーできたようでした。



小物だけでなく、家具も総漆で仕上げることができます。
面積が広くなればなる程、漆の拭き取りも大仕事です。



以前紹介した、銚子も漆がしっかりついて、艶が出ています。



そして、完成した漆製品がこちら。
訓練生が撮影した製品写真です。
ツヤツヤで重厚な製品に仕上がりました。